

池口岳～加加森山～光岳～易老岳（50周年記念 中部山岳縦断山行）

2015年6月13日(土)～14(日)

メンバー：池田T(リーダー)、大山、古橋

池口岳から光岳の区間は中々歩く機会がない。今回、会の50周年記念山行のルートに入ったのを機に実行に移した。

ルートは概ね明瞭。一部で踏み跡が薄い所があったが、迷って道を探し回るほどでは無かった。光岳への登りが少々キツイ上にヤブ気味だったので核心部と言える。

前夜に車2台で浜松を出発した。国道152号線の兵越峠を越えて遠州から信州へ。ダートの林道の奥にある易老渡に2台で入り、下山用に1台デポする。

駐車場には既に10台ほど停まっていた。戻る途中でも2台とすれ違う。夏山のピーク時には満車になるのは必定。800mほど手前に駐車スペースがあったので、そこを利用するのだろう。

大島まで戻って池口岳登山口へ。林道を100mほど奥に入った所にある避難小屋に入って仮眠した。遠山山岳会管理のこの小屋は居心地が良かった。

6/13(土) 晴れ時々曇り

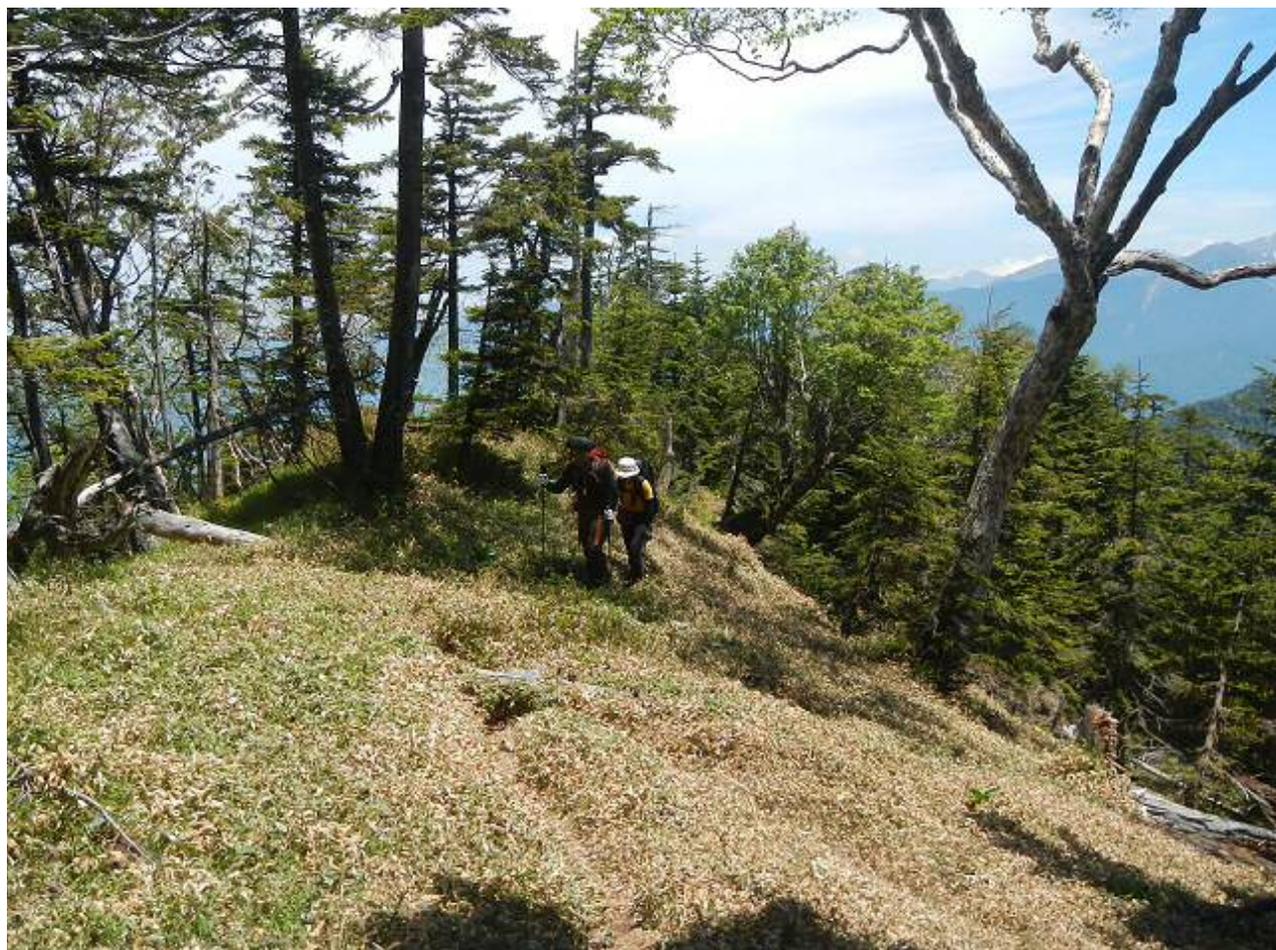
6時に小屋を出発。登山道に入ってしばらくは右手にモミなどの自然林、左手にカラマツの植林を見ながら尾根を登っていく。



標高1600m前後ではブナも見ることが出来た。

黒薙周辺では崩壊が進んで道が無くなっている箇所があった。北側に新しい踏み跡は出来ていたが。

池口岳の山頂が近くなってくると傾斜がキツくなってくる一方、視界も開けてくる。我々が目指す光岳も見通すことが出来た。



山頂まであと少し。



池口岳北峰山頂。50周年記念の手ぬぐいを広げる。

小休止後、登った道を少し戻って加加森山への分岐に入る。5年ほど前に池口岳に登った時は無かった立派な標識が設置されていた。当時よりも加加森山方面の踏み跡が濃くなったように見えた。



立派な分岐標識。



これから進む稜線を見下ろす。正面のピークは加加森山。

登山道は再び森の中へ入る。展望はあまり無いが日差しを遮ってくれるので助かる。風が吹くと寒いぐらいだった。



このように開けた場所もあった。所々出ている葉はコバイケイソウとみられる。



シラビソの林。ルート全体を通して赤布は最小限。

登りが緩やかになると加加森山の山頂台地である。三角点があるピークは光岳への縦走路から離れている。薄い踏み跡を辿っていくと三角点があった。

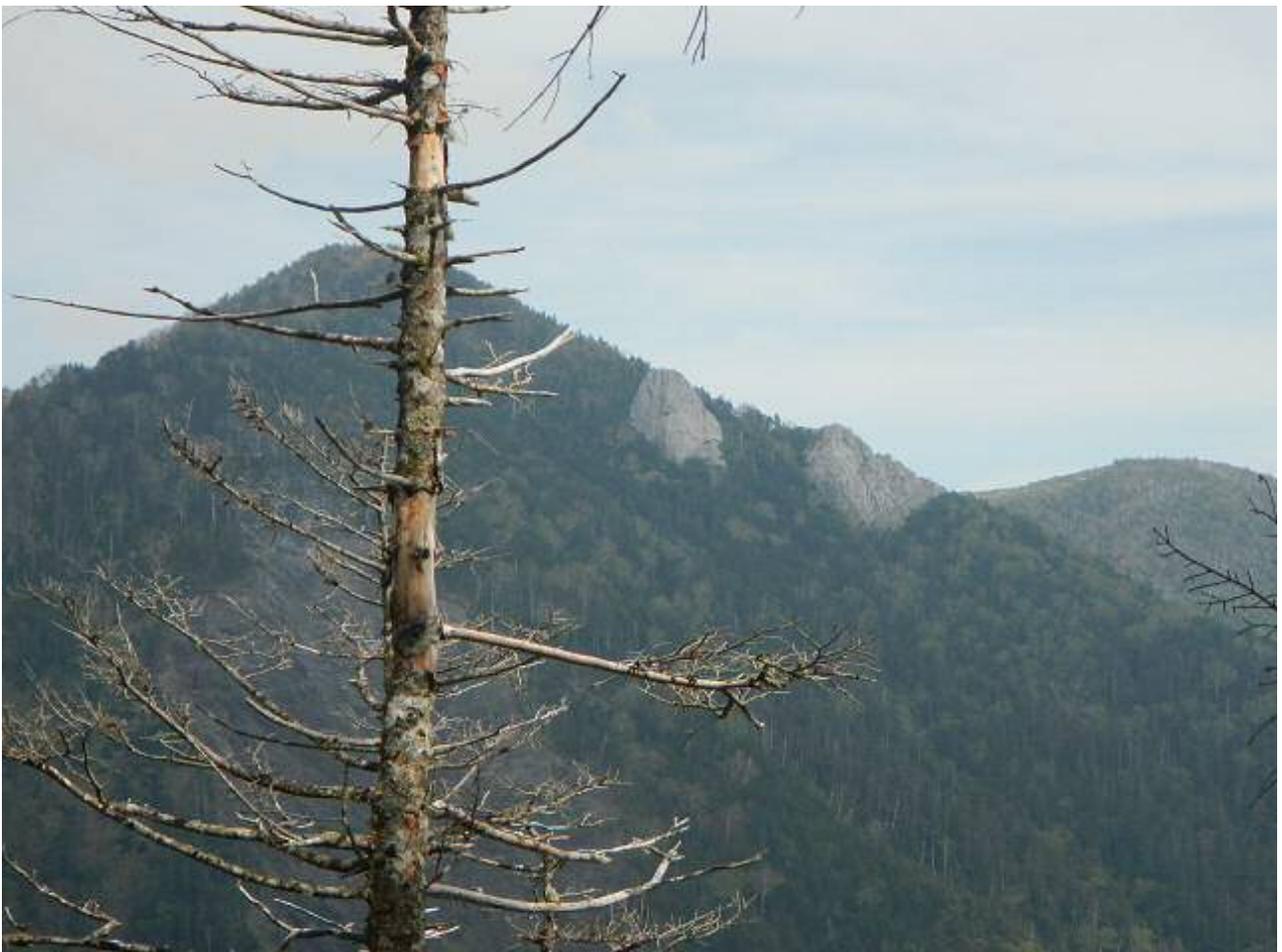


加加森山の三角点にて。展望は全く無し。

加加森山を越えると光岳がいよいよ近くなってくる。光岳の名の由来である光岩が良い目印になる。一ヶ所、ルートを外しかけた。加加森山と光岳の中間点、2381m地点で北北東の尾根に少し入ってしまった。

道が光岳とは明らかに異なる方向になったので早めに気がついたが、光岳が見えていなかったら気づくのが遅れたと思う。

踏み跡は正規ルートよりも明らかに濃かった。間違えて入ってしまう人が多いと思われる。



2つの岩が光岩。遠山郷から遠望したとき、この岩が白く光って見えることから光岳の名がついたらしい。



2286m地点付近。2重山稜の窪地。ルートが少し分かりにくい。

2286m地点を過ぎると光岳への最後の登りになる。急な上に木の枝があちこち張り出していて苦労した。



枝をかき分けながら薄い踏み跡を辿る。

傾斜が緩くなった頃、単独の男性に追いついた。池口岳から光岳の間では他には誰にも会わなかった。
光岳の山頂では光小屋方面から来た何人かの人に出会った。



今日の目標地点に着いてホッと一息。

光小屋は営業期間外だが客用の居室は全て開放されていた。まだ新しくウッディな造りで、これを無料で使えるのはありがたい。

我々が到着した時には既に多くの人で賑わっていた。小屋の定員の7～8割は埋まっていたと思う。場所を確保してから水汲みへ。稜線を南側に数十m降りると痺れるほど冷たい水が谷筋を流れていた。大人数で賑やかだったが、20時には皆ライトを消して静かになった。

<タイム> 池口岳避難小屋6:00 – 黒薙8:20 – 池口岳11:20～11:40 – 加加森山13:40 – 光岳16:40～16:55 – 光小屋17:15 (小屋泊)

6/14(日) 曇り

夜半から雨が降ったが我々の出発前には上がった。小屋を出て少し歩くとセンジケ原が広がる。イザルガ岳はパスして2重山稜の凹地を下る。まだ雪が若干残っていた。下りが終わると平坦地になるがルートが少々分かりにくい箇所があった。



森の中の小径を歩く。



今回の最後のピーク、易老岳。樹林に囲まれて展望は無し。

易老度へは急な下りを延々と下る。易老渡から易老岳には1から30までの看板が設置されている。主に登りの目安にするのだろうが、余計なお節介な気もする。

易老渡には10時前に到着。デポした車に乗って、池口岳登山口の車を回収し、「かぐらの湯」で汗を流して帰路に着いた。

今回の山行で今年5月の磯部パーティーが歩いた聖岳～易老岳とつなぐことが出来たのはもちろん、南アルプスらしい森の雰囲気を楽しむことが出来て良かった。

池口岳～加加森山、光岳～易老岳
【重要】レトラボは2020年3月末にサービスを終了します。
詳細はこちらをご覧ください。

more effective route ++



<タイム> 光小屋5:45 - 易老岳7:25 - 易老渡9:45

(池田T記)

以上